



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 2003 Number 2

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

R. Y. Osamura, M.D. (03)

Tokai University

PAST PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (03)

Jikei University

PRESIDENT-ELECT

T. Morohoshi, M.D. (03)

Showa University

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (03)

National Defense Medical College

COUNCILLORS

T. Manabe, M.D. (03)

Kyoto University

M. Tsuneyoshi, M.D. (03)

Kyushu University

Y. Kato, M.D. (04)

Cancer Institute

K. Mukai, M.D. (04)

Tokyo Medical University

H. Hashimoto, M.D. (05)

University of Occupational and Environmental Health

S. Nakamura M.D. (05)

Aichi Cancer Center

COMMITTEE CHAIR

Education

N. Nemoto, M.D. (03)

Nihon University

Finance

H. Yamabe, M.D. (03)

Red Cross Wakayama Medical Center

Nomination

S. Ushigome, M.D. (03)

Jikei University

故Fathollah K. Mostofi先生



Surgical Pathology Update (SPU) 2003

日時：2003年6月20日（金）から22日（日）

場所：湘南国際村センター（神奈川県三浦郡葉山町）

テーマ：「子宮体頸部腫瘍と軟部腫瘍」

Faculty : Steven G. Silverberg教授 (Maryland大学)

Christopher D. M. Fletcher教授 (Harvard大学)

橋本 洋教授 (産業医科大学)

森谷卓也助教授 (東北大学)



SPU 2003のProgram

Day 1 (Friday, June 20) Auditorium

11:00- Registration

11:30-13:00 Lunch

13:00-13:10 Opening and Welcome (R. Y. Osamura, M.D.)

13:10-14:30 Glandular and other nonsquamous lesions of the uterine cervix (S. G. Silverberg, M.D.)

14:30-15:00 Coffee

15:00-16:00 So-called fibrohistiocytic tumors of deep soft tissue (C.D.M. Fletcher, M.D.)

16:00-17:00 Diagnostic application of the detection of fusion gene transcripts in soft tissue sarcomas (H. Hashimoto, M.D.)

18:30- Dinner and Reception

Day 2 (Saturday, June 21) 6th Conference Room

09:00-10:00 Mixed tumors of the endometrium (S. G. Silverberg, M.D.)

10:00-10:30 Coffee

10:30-12:00 Slide seminar on soft tissue tumors (C.D.M. Fletcher, M.D.)

12:00-13:30 Lunch

13:30-14:30 Selected diseases of the vulva (S. G. Silverberg, M.D.)

14:30-15:30 Borderline and malignant vascular tumors of soft tissue (C.D.M. Fletcher, M.D.)

15:30-16:00 Coffee

16:00-17:00 CIN and microinvasive squamous carcinoma of the uterine cervix (T. Moriya, M.D.)

17:00-19:00 Consultation Cases (Uterus and soft tissue) with Faculty

19:00- Dinner

Day 3 (Sunday, June 22) 6th Conference Room

08:30-10:00 Slide Seminar on female genital tract lesions

(S.G. Silverberg, M.D.)

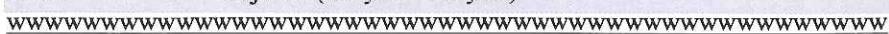
10:00-10:30 Coffee

10:30-11:30 Pseudosarcomatous lesions of soft tissue (C.D.M. Fletcher, M.D.)

11:30-11:45 Summary of SPU2003 (S. G. Silverberg, M.D.)

11:45-11:55 Closing Remark (O. Matsubara, M.D.)

12:00- Adjourn (see you next year)



今年の日程は6月20日（金）から22日（日）で、応募を募ったところ、今回も多数の希望者がいらっしゃり、定員を超えて、キャンセル待ちの方がいらっしゃるほどです。また、今回からアジアからの参加者が加わります。というのは、サクラファインテックジャパンからアジアの若い病理医を参

加aserるためにと今年60万円の寄付がありました。これを基にSurgical Pathology Update / Japanese Division of IAP (SPU/JDIAP) Grant for the Asian Young Pathologistsを作り、今年は長村会長からThai Divisionの会長のDr. Thiti KuakpaetoonとMalasiaのDr. Suat-Cheng Pehに2人づつ若い病理医を推薦して欲しい旨の依頼がなされ、結果的にThaiからDr. Thiti KuakpaetoonとDr. Malee A. Warnnissom、MalaysiaからDr. Suat-Cheng PehとDr Mun Kean Seongの4人がSPU2003に参加することとなっています。2000年から始めて今年は第4回目、国内はもとよりアジアからも病理医を集めるという発展をみてきています。益々の盛況が望されます。

A decorative horizontal border consisting of a repeating pattern of black diamonds and white diamonds.

韓国Yang先生への海外表彰

4月23日8時から、福岡市の寿司割烹「河庄」にてYang先生への海外表彰とPartyが開催された。出席は、Yang先生ご夫妻、遠城寺先生ご夫妻、石川栄世先生、赤木忠厚先生、牛込、長村ご夫妻、諸星、恒吉、真鍋、中村、根本、山邊の先生方と、松原。Yang先生はお寿司が好物なので、恒吉先生がこの場所を探して下さった。表彰の後、乾杯、歓談と楽しいpartyを開催することができました。Yang先生は恒吉先生が会長の日本病理学会総会のアジア・オセアニアシンポの司会者として招待されていることを知って、この表彰とpartyを企画したのです。しかし、本来の目的のシンポはSARSのため中止となり、Yang先生はこの表彰のためだけの来日となってしまいました。日本病理医との交流の太い太い幹ともいえるYang先生に、今まで果たされた貢献を讃え表彰し、交流を深めあったことは意義深く、益々の日韓交流と信頼の深まりが望まれます。

紺碧のエーゲ海に面したアポロ・コーストにある超一流のリゾートホテルで開催された。ギリシャの病理医の約8割は女性であります。今回のNiki Agnantis会長(IAPギリシャ支部の会長でもある)も女性でボス的存在との印象で、実際にとり仕切ったのは George Kontogeorgos組織委員長(同支部の常任幹事)で内分泌病理を専門としており、長村義之、 笹野公伸、 佐野寿昭教授らとも親交がある為か日本人に好感をもっていると思われました。佐野教授をToshiaki, Toshiakiと呼んでいた。作曲家でもあり、CDを出しており、音楽学校に通ったことのある異色の病理医であります。2008年の国際会議を立候補し、実際に動いたのは彼であり



前左：牛込、石川、Yang先生夫妻、遠城寺先生夫妻、赤木、恒吉

後左：中村、長村夫妻、山辺、松原、真鑑、根本、諸星

IAPアテネ支部を訪ねて

IAP 会長 牛込新一郎

自殺テロや新型肺炎(SARS)を気にしながらの旅立ちとなりましたが、目的は1) 2008年IAP国際会議のためのsite inspectionと2) Intraeuropean Mediterranean Conference of IAPに招かれそのboard meetingに参加することの2つであった。学会の方は250人ほどの登録で欧米からの講演者による講義と自國の方を主体としたポスターであった。アテネの空港から車で20分ほどの

ます。今回は乳癌、子宮内膜癌、メラノーマ、前立腺癌などが主なテーマであった。いずれも分子病理学的、基礎的内容が含まれていました。筆者も真面目に討論を聴きましたが、親日家というか日本の産婦人科医や病理医と親交のあるバルセロナからのプラト教授（ハイミー）と1時間ほど透き通るホテル後面の海岸で泳ぐ余裕はありました。スペインからは筆者とも親しいA. llombart-BoschやF. Martines-Tello、サウジアラビアのSamir AmrらとG. Kontogeorgeosらを中心とする地域の病理医のほかにIAP本部からはJack Strong教授（日本支



会議前日にくつろぐInspection Team: 左からDr. Strong、部の会員でもある)と筆者が参加して次回を何時何処で行うかなど意見交換しました。2005年はスペインが、2007年はAmrがベイルートで世話をしてくれることになりました。もう一つの検討事項はイラクの病理医が大変困っているとのことであります。まづAmrが適切なる情報を早急に我々に伝えてもらい、IAPとしてできることがあるか否かを検討することで意見が一致しました。

会議後は招待演者なども加わり、スニオン岬まで小型バスで移動し、ポセイドン神殿の遺跡を見学した。翌日（日曜）はStrong教授夫妻と筆者でアテネ市のヒルトンホテルに向かい、そこでL.Shander女史（IAPのInternational Congress Directorで、最近IAPの名誉会員でゴールドメダリストとなった）と落ち合い、遅い昼食後はStrong教授奥様の美保子様と筆者とでアクロポリス見学となりました。

翌日からはIAP側の我々3人、Kontogeorgos先生、ERAという学会オーガナイザーの代表らとの会議に入った。ベテランのStrong教授とShander女史という専門家が中心なので、実質的な内容で進行し、2日目は5つ星から3つ星のホテルを見てまわり、ある程度の方向がでました。メトロも3本あり、来年のアテネオリンピックまでには空港まで伸びる計画もあることを知り、地下鉄も広く清潔で、学会中にはメトロ券も参加者に用意するとの考えも示されました。ギリシャは日本人の観光客も多く、2008年の国際会議が最終決定されれば(今回IAP理事会で)、日本からの病理の先生方と家族の方々も多数登録されるのではないかと思った次第であります。その折には滞在日数に余裕をもたせていただき、エーゲ海のクルーズが出来たら最高ではないかと感じた次第であります。その前に来年10月のブリスベインと2006年のモントリオールの国際学会にも本邦病理医の参加・活躍を期待しておりますが、それまでにテロや新型コロナウイルスの問題などが解決していることを願うものであります。

現時点では無理でしょうが、サウジアラビアのSamir Amr先生は日本から消化管病理専門家の講演を期待しており、滞在費は用意できるが、旅費は日本側で考えてくられるると有難いと強く要望されたことを申し添えます。

今回の旅は特別なマスクを一応用意していくことは異様であったが、ギリシャの病理医のみならず、ヨーロッパや米国の先生方とも親交ができたことに意義があったと思いました。

牛込会長、Ms. Shander

2003年度第2回理事会議事録

2003年度第2回IAP日本支部理事会

日時：平成15年04月23日（水曜日）12：45-13：45

場所：福岡国際会議場 4F 「504会議室」
出席者：長村、牛込、諸星、真鍋、加藤、橋本、中村、根本、山邊、松原

欠席者・恒吉・向井

大席音・画音、
議題について

報告事項：

1. USCAP 2003年03月22日—28日 Washington, D.C.
にて開催。イラク戦争の影響でキャンセルも多いようで、参加者は少なめでした。アメリカの友人の中でも飛行機を避けて遠方から車で来たという方も多かったようです。

2. SURGICAL PATHOLOGY UPDATE 2003進捗状況：
湖南国際村、06月20-22日（金一日曜日）

婦南国際会議場、6月20-22日（金・土曜日）
テーマは、「子宮体部頸部腫瘍と軟部腫瘍」で、
FacultyはSjöverberg教授と

Dr. Chris Fletcher (Brigham & Women's Hosp.)、日本側のカウンターパートは森谷（東北大）と橋本理事。場所は同じ湘南国際村センター。

3. APASPはBaliで September 2-5, 2003

4. 日中合同スライドセミナー

5. 日韓スライドカンファレンス 2003年10月31—11月01日 Seoul

10月31日（金曜日）午後3時からBone and Soft Tissue
11月01日（土曜日）午前9-12時にIAPのもの、
場所はSeoulでCatholic Medical School
特別講演のspeakerを日本側から下里幸雄先生を推薦し、
韓国側からOKの返事を貰う。講演は討論を入れて1時間。
ホテル代は韓国側がもつとのこと。航空券はこちらがもつ

6. Yang先生の表彰Partyのこと

4月23日8時から、寿司割烹「洞庄」にて

出席予定者は、長村、牛込、諸星、恒吉、真鍋、中村、根本、山邊、松原の他に、石川、遠城寺ご夫妻、長村夫人、社本、Yang先生夫妻を加えて16名の予定。Yang先生夫妻を除いて参加者から10,000円会費徴収の予定。

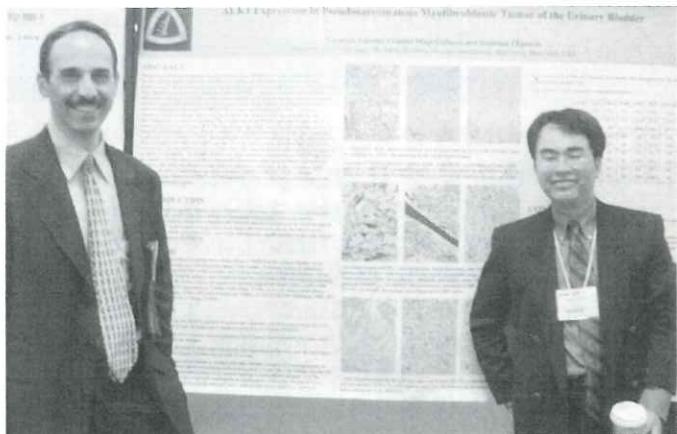
7. IAP 日本支部・病理診断学術奨励賞の選考委員：
真鍋審査委員長、山辺副委員長。他のメンバーも去年
と同じでやっていただぐ。

ここ数年は数千の遺伝子の過剰あるいは低発現を一度に検出するCGH comparative genomic hybridizationを含めて、分子生物学的手法を用いた絨毯爆撃的な研究の増加が顕著になっていますが、常に組織形態学にファードバックがなされ、新しい概念が提唱され、日常病理診断業務あるいは患者ケアに還元されているとの印象をもちました。一日目の夕方に行われるThe Nathan Kaufman Timely Topic Lectureでは、造血幹細胞および中枢神経系幹細胞を初めて同定し、生命科学に光明をもたらしたスタンフォード大学のIrving L. Weissman教授が幹細胞研究の歴史と現状、展望について、2日目夕方の第46回Maude Abbott Lectureではテネシー大学James R. Dowing教授が急性白血病における癌原性転写因子について講演しました。3日目にポスター発表と平行して終日行われる恒例のロング・コースでは、ジョンズ・ホプキンス大学のJonathan I. Epstein教授がモデレーターとなり、前立腺癌に関する包括的なプログラムが組まれました。その他、感染症学会のコンパニオン・ミーティングでは、「バイオテロリズムー病理医が知つておくべきことは何か」、あるいは日本病理学会の病理診断講習会に相当するイブニング・カンファランスのセッションでは「戦争の病理」と題して話題提供が行われるなど、実に“タイムリーな”内容も盛り込まれていました。4日目、5日目は各種教育セミナー(short courses)が中心ですが、これにも多くの病理医が参加し、熱心にエキスパートの話に耳を傾ける姿がみられました。私はスペシャル・コースである分子病理学のコースをとりましたが、遺伝子診断が広く一般化しつつある現状の中で、そのコスト・パフォーマンスの問題、精度管理、倫理問題などまで論じられていたのが印象的でした。ちなみにこの他にDiagnostic Molecular Pathologyのコースがありますが、何人かの日本の先生のお話では大変practicalでわかりやすいと好評でした。今回の学会は2004年3月6日から12日にかけての日程で、バンクーバーで開催される予定です。演題登録の締め切りは例年9月中旬です。詳細は学会ホームページ・ページにアクセスしてご覧ください(<http://www.uscap.org>)。なお、一般演題の抄録は昨年からホームページ・ページ上で検索して絞り込んでダウン・ロードできるようになっている他、大変有り難いことに、今年からは各種関連学会、イブニング・カンファラנסのハンドアウトもダウン・ロードできます。盛りだくさんの内容ですので、是非アクセスして頂きたいと思います。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
The 92nd Annual Meeting of USCAP
に参加して

名古屋第二赤十字病院病理部 都築豊徳

表記の会議は平成15年3月22日から28日まで、Louis P. Dehner会長のもと米国の首都ワシントンD.C., Marriott Wardman Park Hotelで開催された。折からの軍事情勢から（実際、筆者が日本を出国したのはバクダッド空爆開始後1時間後であった）日本を含めた海外からの出席予定者が多数キャンセルされていたようでした。米国からの出席者は例年同様であったようで、学会自体は盛況でした。学会の初めはcompanion meetingと称する臓器別もしくは小学会による分科会形式の会が多数催され、それぞれの分野からの問題事項もしくはトピックスが発表されていました。中でも注目を引いたのはCollege of American Pathologistsが催したErrors in Surgical Pathology: A Panel Discussion of Real Life Case Scenariosというタイトルの会で、実例をもとに如何に病理医が



Dr. Epsteinと都築先生、彼らのposterの前で
様々な医療過誤を犯していくのかということが、6人の
著名な病理医によって紹介されていました。米国での
医療事情からか、この会は立ち見が出るほどの盛況で
した。

月曜日から水曜日にかけて口演及びポスターによる研究発表がなされた。すでに有名なjournalに掲載予定もしくは投稿中のものも多数見られ、今後の米国での外科病理の動向を知る上では大変参考になりました。日本から多くの発表がなされており、日本の病理学も米国で徐々に認知されつつあるという実感を受けました。Fellowの優れた発表に送られるStowell-Orbison賞の受賞者の一人にJohns Hopkinsに留学中の中山雅志先生が選ばれました。前立腺癌の前癌病変におけるGST-p methylationに関する研究が高く評価されました。私の知る限りでは日本人としては初めての受賞だと思います。今後も受賞者が増えていくことが望まれる次第です。水曜日には前立腺癌に関するLong Courseが行われました。米国での前立腺癌の実態を反映してか、かなりの盛況でした。日本でも近年前立腺癌が急増ってきており、日本にても同様の試みがなされる必要性があると感じました。来年のModern Pathology 2月号にその概要が掲載されますので、詳しくはそれを参照して下さい。ほぼ毎晩、実際に提示された標本を元に、その症例解説を行うSpecialty Conferenceが催されました。日本では臓器別診断講習会に近いものだと思います。前回から症例をあらかじめインターネットで閲覧できる形式になっており、日本でもこの方法の導入が望れます。水曜日から金曜日にかけては分子生物学に関するCourseや臓器別のShort Courseが多数行われました。特にShort Courseの多彩性はいつも目を見張らせられます。

最後に、世情を反映してかホテルの警備が厳しかったです。ホテルの門では必ず写真付IDが要求されました。一度IDを見せる前に“おまえ、俺よりこのIDの方が好きなんだろう。”と冗談で言ったら、警備員が“OK, Brother!!”といつてID check無しで通過させてくれました。ずいぶんいい加減な（好い加減？）checkでした。

した。

USCAPに参加して

東京都老人医療センター臨床病理科 新井富生

東京都老人医療センター 臨床病理科 新井留生
イラク戦争が3月20日から始まり、周囲の人が心配する中ワシントンDCで開催されたUSCAPに出席した。アジアオセアニア、欧州には何回か行った経験はあるが、私にとって米国への渡航は初めてであり、勿論USCAPも初めての参加であった。出発前正直なところテロが心配であったが、成田空港の搭乗待合所で数人の病理関係者にお会いしその不安は吹き飛んだ。ただワシン

トンDCのホテルに着いたその直後、ホテル前で反戦デモ隊が警察と1時間余り小競り合いを繰り返しており、再び大変なところに来てしまったという気持ちがよみがえらなかつたかといえば嘘になる。しかし翌日以降、街中は平静であり快適に過ごすことができた。

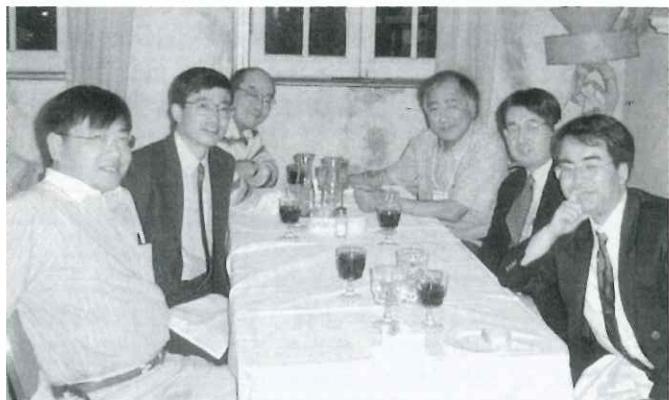
学会はダウンタウンの国立動物園近くにあるワシントンDCでも大型のMarriott Wardman Park Hotelで開催された。時節柄警備は厳しく感じられた。学会行事は一部土曜日から始まっていたようであるが、私は日曜日午後Campaign Meetingの一つである Rodger C. Haggitt Gastrointestinal Pathology Societyから出席した。そこでは「消化管における神経内分泌細胞」、「食物による消化管感染症」、「薬剤起因性消化管疾患」の教育セミナーがあった。消化管感染症については、移植医療の発達などに伴うimmunocompromised patientに関連した日和見感染に注意するとともに、交通手段の発達に伴うworldwideの感染症に広く知識を持つべきであることが強調された。さらに炭疽など生物兵器からの感染の可能性についても意識を高めるべきだという内容もあった。こういうところにも9.11同時テロやイラク戦争の影響が及んでいた。教育セミナーの後、Rodger C. Haggitt Memorial Lectureとして、昨年豪州Queensland大学からカナダのMcGill大学に異動したJass教授が「消化管における粘液について—種々の病態における粘液の役割とその診断的意義」という講演をされた。消化管癌における粘液の研究は1980年代以前の組織化学の時代からなされていて、最近は遺伝子発現形質としての粘液という観点から研究が進められており、St Marks Hospital時代から長年消化管粘膜あるいは腫瘍における粘液の研究に取り組んでこられたJass教授の成果を聞くことができた。

翌日からは一般演題（口演、ポスター）と夕方のSpecialty Conferenceを中心に参加した。発表にしろ、標本の解説にしろ、とにかく教育によって全体のレベルを向上させようという雰囲気が十分感じられた。Microscope roomには数十台の顕微鏡が設置されており、学会期間中いつでもそこに行き標本を観察できるシステムになっていた。事前に標本を観てからセミナーに臨んでもよいし、同時進行で受講できなかつた標本をハンドアウト片手に観てもよいし、いずれにせよ実際に標本を観察することができるのは病理医としては貴重な経験であった。またSpecialty Conferenceの症例は組織像も含めUSCAPのホームページ(<http://www.uscap.org>)に公開されているので、帰国後も繰り返し閲覧することができる。なお、このホームページにはShort Course、Companion Meetingのハンドアウトも提示されている。

火曜日午後、「高齢者大腸低分化腺癌medullary typeにおけるhMLH1遺伝子プロモーターのメチル化とその蛋白発現」という演題をポスター発表した。USCAPでのポスターは模造紙大の紙一枚に全てを印刷し提示するのが主流であった。私のポスターはA4大の紙を張り合わせ提示したのでやや見劣りする感じがした（しかし持ち運びに関しては勿論こちらの方が楽である）。発表内容に関しては、何人かと自由に討論でき、新しい視点、問題点を認識することができた。さらに岡山大学能登原先生の紹介で、昨年のUSCAPで「大腸癌においてhMLH1遺伝子プロモーターのメチル化が加齢とともに増加する」という研究を発表したDr Kakarとお話しすることができ、お互いの研究内容について情報交換をすることができた。

初めてUSCAPに参加した感想は、とにかく規模の大きさと病理にかける情熱が印象的であった。各個人の

自己研鑽は勿論であるが、教育を通して全体のレベルアップを戦略的に図っている姿勢を強く感じた。また朝8時過ぎから夕方9時過ぎまでセミナーと討論があり、全く飽きさせないプログラムに感心した。今後USCAPに参加することが楽しみになりそうな、そんな学会であった。



学会場前のイタリアンレストランでワインと夕食を楽しむ、
左前から 中西 新井 小山 松原 清水 都築

USCAP教育材料がWebsiteでfree

USCAPのSecretary/Executive DirectorのDr Fred Silva から、次の連絡がありました。IAPを引っ張るUSCAPらしい懐の大きい親切だと思います。Dr. Silvaで1段とUSCAPも好いほうへ変わっています。

Dear Officers of the IAP Divisions World-Wide,

Hope you are doing well. Just an updated note to ask you to let your members know that we now have up much of the USCAP's Annual Meeting Educational Materials on our USCAP Website: www.uscap.org for free. All 21 Companion Societies, all 16 Evening Specialty Conferences, and all the Scientific Abstracts (searchable by topic, disease, technology, etc) and many Short Courses are up on this website for anyone to use, at any time for free.

We hope you and your members find this useful. In addition, our USCAP Website has many links to other societies/institutions which also have an abundance of free educational materials if you should want it. Would you please call this to the attention of your members.

Thanks Take care

Fred Silva USCAP

Fifth Association of Directors of Pathology of China

July 19-21, 2003, Guangzhou 广州

July 19-21, 2003, Guangzhou 广州
July 21-23, 2003, Hong Kong 香港

July 21-23, 2005, Hong Kong 香港
IAP, Asia地区の Vice-president である Dr. Ho-keung Ng を Executive Committee の Chairman として、開催される。 Registration Form は福岡の日本病理学会会場の受付に置きましたが、参加をお考えの方は、Mrs. Irene Lo, e-mail: irenelo@cuhk.edu.hk へ連絡を取られたい。

8th Asia Pacific Association of Societies of Pathologists Congress - 2006

September 3-5, 2003, Bali, Indonesia

September 2 - 5, 2003 Bali, Indonesia
Modern Pathology: From Basic Science to Clinical Applicationをテーマとして開催される。Registration Formは福岡の日本病理学会会場の受付に置きましたが、詳細は<http://www.apasp2003.com>にて。

DIAGNOSTIC PATHOLOGY UPDATE

COURSE

July 12 - 18, 2003 in Bar Harbor, Maine

Atlantic Oakes By-the-Sea, Resort and Conference Center
USCAPの方から誘いがありますのでここに広告します。
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

XXV Congress of the IAP

10 - 15 October, 2004

Brisbane, Australia

Website: iap04.im.com.au

日本から大勢参加しましょう

日本から大勢参加しましょう

Fathollah K. Mostofi, 91

Expert in Genitourinary Pathology

Fathollah K. Mostofi, MD, the world's leading expert in the field of genitourinary pathology and chairman of that department at the Armed Forces Institute of Pathology (AFIP) in Washington, DC since 1948, died of congestive heart failure on April 6 at Walter Reed Army Medical Center. He was 91 and lived in Chevy Chase, Md.

Dr Mostofi was internationally recognized by pathologists, urologists and other clinicians as a respected teacher and visionary in the field, with a gentle manner, keen mind and commitment to patient care. He served as the head of the World Health Organization International Reference Center for Urological Tumors since 1965, and his classifications of testicular tumors, and of tumors of the bladder, prostate and kidney have been adopted by the World Health Organization and translated into multiple languages.

In 1952 he took over the floundering International Association of Medical Museums and developed it into the International Academy of Pathology, a dynamic education organization with 23 divisions around the world. In addition to developing the academy's first postgraduate education program for physicians, he served as its secretary-treasurer from 1954-1970. In 1972 he received a gold medallion from the U.S.-Canadian Division of the IAP, the only one ever presented by this division – for his accomplishments. During his career Dr. Mostofi served as an advisor or consultant to, among other organizations, the International Agency for Cancer Research, International Union Against Cancer, the North Atlantic Treaty Organization and the Pan American Health Organization.

In the 1950's he also played a pivotal role in the study of human factors in aircraft accidents. Together with British and Canadian military experts, he organized the first international symposium on the subject and helped create the Joint Committee on Aviation Pathology. He served as secretary of the committee from 1954 to 1960, designing a wide-ranging program for comprehensive examination of aircraft accidents and to collect information for aircraft safety.

Born in Teheran, Iran, in 1911, Dr. Mostofi immigrated to the United States in 1931 and was educated at the University of Nebraska and Harvard Medical School. He completed an internship at St. Luke's Hospital, Bethlehem, Pa., and pathology residencies at Peter Bent Brigham, Boston Lying-In Hospital and Free Hospital for Women, and at Children's Hospital, Boston. In 1944 he entered the U.S. Army and served as chief of laboratory service at Birmingham General Hospital and William Beaumont General Hospital until his discharge from active duty in

1947. He retired from the U.S. Army Reserves with the rank of colonel in 1971.

Dr. Mostofi joined the AFIP staff in 1948 following a one-year fellowship at the National Cancer Institute. At AFIP, in addition to his role as department chairman, he served as scientific director, American Registry of Pathology from 1957 to 1959, and as chairman, Center for Advanced Pathology and Associate Director for Consultation from 1977 to 1986.

Dr. Mostofi authored or co-authored over 200 articles and 15 books on genitourinary pathology, and other authors have dedicated 5 books to him. He was a tireless ambassador on behalf of the AFIP, and his last published article in support of the institute's missions appeared in a pathology journal in March.

In 1982 he received the Distinguished Executive Rank Award from President Reagan. Numerous other honors include the Gold Medal of the International Academy of Pathology, the Presidential Honor Award from the American Urological Association and the American Foundation for Urologic Disease Presidential Award.

His wife, the former Dorothy Krock, died in 1994. One son, Keith, of Arlington, and one grandson, David, of Washington, DC, survive him.

あとがき :: 2003年度第2号をお届けし、同時に本部の
プレティンを同封します。秋の教育セミナーへのご案
内と申込用紙は次号に同封します。イラク戦争が終わつ
たら、今度はSARS禍が吹き荒れて、国際交流が一段と
難しい時期となっています。会員の皆様もくれぐれも
お気をつけ下さいと言いつつも、各種の国際交流の学
会や交流集会を室内しています。



上の写真はWashingtonで行われたUSCAPの時、Dr. Steve Silverberと奥様が、先生の所へ留学された方々、IAP日本支部役員関係者などをご家庭に招待して下さったときのものです。奥様手作りのお肉、野菜料理にみんな舌鼓をうち、おいしいワインを片手に、楽しい会話が続き、夜遅くまでお邪魔してしまいました。閑静な住宅街にあり、夜遅く変てこな日本人の集団が地下鉄駅まで歩いて帰ったので、近所の方々は怪しい集団と思われなかつたか、Silverber先生ご夫妻に迷惑をかけたのではと心配しました。Surgical Pathology Updateでも大変にお世話になりますし、いつでもSilverber先生ご夫妻は日本の病理にとって大恩人です。

常任幹事：松原 修／事務局：佐々木洋子
〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2
P: 042-995-1507 / F: 042-996-5193
E-mail: matubara@cc.ndmc.ac.jp